

2019年11月27日

いわぎん事業創造キャピタル株式会社

「いわぎん農業法人ファンド」による投資について

いわぎん事業創造キャピタル株式会社（代表取締役社長 稲垣 秀悦）は、株式会社岩手銀行と株式会社日本政策金融公庫が共同で組成した「いわぎん農業法人ファンド」の投資先として、施設野菜栽培を新たに開始する株式会社八幡平スマートファーム（本社 岩手県八幡平市、代表取締役社長 児玉 則浩）に出資を行うことを決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

株式会社八幡平スマートファームは、岩手県八幡平市の松川地熱発電所から発生する温水を活用した「I o T次世代施設園芸地熱温水ハウス」を新たに12棟建築し、水耕栽培によるバジル栽培を開始する予定です。当社は八幡平市高石野団地にて長年未活用となっていた熱水ハウスの再生に取り組むとともに、地域資源である地熱を活用することで、サステイナブル（持続可能性）な農業の実現を目指しております。当社の取組みは「いわぎんグループSDGs宣言」の趣旨に合致するとともに、今後の事業成長が期待できることから、出資を決定いたしました。

記

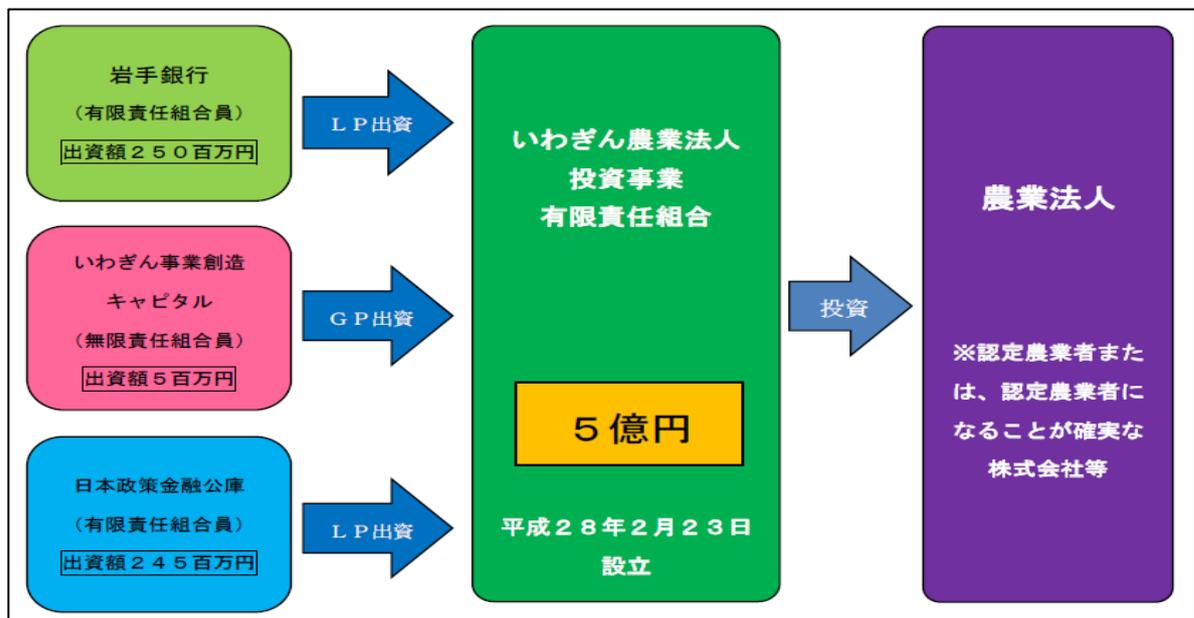
1. 投資決定先の概要

企 業 名	株式会社八幡平スマートファーム
代 表 者	代表取締役 児玉 則浩
本 社 所 在 地	岩手県八幡平市大更第35地割62番地
設 立	2019年1月
事 業 内 容	施設野菜栽培（バジル水耕栽培および販売）
出 資 額	5,000万円
出資金の使途	運転資金
出 資 形 態	無議決権優先配当株式引受
企 業 の 特 徴	<p>当社は、2019年1月に調印された八幡平市との「企業立地協定書」に基づき、事業拡大を目指すバジル生産農家として設立された会社である。</p> <p>栽培方法として縦型水耕栽培を採用することで露地栽培に比べ高い生産性を実現するとともに、I o Tの活用により施設内の温度や湿度、養液等を自動制御するスマート農業に取り組んでいる。</p> <p>また、松川地熱発電所から発生する温水を活用した熱水ハウスを建築することで未活用ハウスの再生と自然エネルギー活用、ならびに経済性を確保した持続的な農業の実現を目指している企業である。</p>

2. ファンドの概要

名 称	いわぎん農業法人投資事業有限責任組合	
ファンド総額	5億円	
設 立 日	平成28年2月23日	
出 資 者	株式会社 岩手銀行	250百万円
	株式会社 日本政策金融公庫	245百万円
	いわぎん事業創造キャピタル株式会社	5百万円
運 営 期 間	約15年	
投 資 対 象	岩手銀行営業エリア内の認定農業者または認定農業者として認定を受けることが確実な農業法人で、株式会社（特例有限会社を含む）形態の組織	

3. ファンドのスキーム図



○ 「SDGs」について

SDGsは Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会全体で取り組むべき目標です。

2030年を目標年として、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」等、国際社会共通の17のゴール（目標）とゴールごとに設定された169のターゲット（個別目標）から構成されています。

以 上

<本件に関するお問合せ先>
 経営戦略室 高橋 TEL：019-621-1470